

# アシラム

ASHRAM

解題

アシラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

2026. 1月第686号

発行所 アシラムセンター  
523-0894 近江八幡市中村町567-2  
Tel 0748-33-4030  
Fax 0748-33-8856

アシラムセンターホームページ  
[www.ashramcenter.jp](http://www.ashramcenter.jp)

編集 アシラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772  
アシラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

この秋、日本各地で熊の出没が相次ぎ、私たちは大きな驚きを覚えた。ここ近江八幡でも目撃情報が流れ（のちに誤報と判明）、町全体に緊張が走った。市街地を縦横に駆け抜け、スリーパーマーケットに入り込み、柿の木に登つて悠然と実を食べる——そのような熊の姿が、テレビ画面に繰り返し映し出されたのである。しかし、何よりも慄然とさせられたのは、人が襲われ、尊い命が奪われる痛ましい出来事が続いたという事実である。新聞配達の途中に、きのこ狩りの最中に、露天風呂の清掃中に、そして朝起きがけの玄関先に一日常のひとこまに突然、恐怖が割り込んでくる。

かつてテレビのドキュメンタリー番組で、象による被害に苦しむスリランカの農村を取材した映像を見たことがある。村人たちは畑を荒らされ、家屋を壊され、その恐怖を日々に語っていた。暗闇の中で花火を打ち上げ、必死に象を追いかねばならない動物をすべて園で穏やかに水を浴びる「ぞうさん」ではなく、人を踏み潰す巨大

江八幡でも目撃情報が流れ（のちに誤報と判明）、町全体に緊張が走った。市街地を縦横に駆け抜け、スリーパーマーケットに入り込み、柿の木に登つて悠然と実を食べる——そのような熊の姿が、テレビ画面に繰り返し映し出されたのである。しかし、何よりも慄然とさせられたのは、人が襲われ、尊い命が奪われる痛ましい出来事が続いたという事実である。新聞配達の途中に、きのこ狩りの最中に、露天風呂の清掃中に、そして朝起きがけの玄関先に一日常のひとこまに突然、恐怖が割り込んでくる。

江八幡でも目撃情報が流れ（のちに誤報と判明）、町全体に緊張が走った。市街地を縦横に駆け抜け、スリーパーマーケットに入り込み、柿の木に登つて悠然と実を食べる——そのような熊の姿が、テレビ画面に繰り返し映し出されたのである。しかし、何よりも慄然とさせられたのは、人が襲われ、尊い命が奪われる痛ましい出来事が続いたという事実である。新聞配達の途中に、きのこ狩りの最中に、露天風呂の清掃中に、そして朝起きがけの玄関先に一日常のひとこまに突然、恐怖が割り込んでくる。

かつてテレビのドキュメンタリー番組で、象による被害に苦しむスリランカの農村を取材した映像を見たことがある。村人たちは畑を荒らされ、家屋を壊され、その恐怖を日々に語っていた。暗闇の中で花火を打ち上げ、必死に象を追いかねばならない動物をすべて園で穏やかに水を浴びる「ぞうさん」ではなく、人を

踏み潰す巨大

神は、清いものの完全数

大洪水によって世界を一度リセットしようとされた。その中で無垢であったノアが選ばれ、その家族とともに、動物たちが方舟へと招き入れられていく。

その際、神は命じられた。「あなたは清い動物をすべて七つがいづつ取り、また、清くない動物をすべて

生きる野生動物であった。  
そして今、私たちの目の前にある熊出没の現実もまた、童謡・唱歌「森のくまさん♪」で歌われる愛らしいクマとはまったく別物である。熊も象も、自然界を

生きる野生の命なのである。月のみ言葉は、よく知られたノアの箱舟の物語である。墮落した人間の行いを見て、神は創造を悔やみ、ある。熊も象も、自然界を生きる野生の命なのである。月のみ言葉は、よく知られたノアの箱舟の物語である。墮落した人間の行いを見て、神は創造を悔やみ、ある。熊も象も、自然界を

混ぜて入れられた。アダムとエバを誘惑した蛇を含む、地を這うものまでもであります。洪水が止み、地が現れたとき、それらは箱舟から出てきた。神は、新しい世界の始まりにあつても、蛇——悪の象徴とも見なされる存在——を排除されなかつた。強いものも弱いものも、好まれるものも忌避されるもの

の中には、空の鳥とエバを誘惑した蛇を含む、地を這うものまでもであります。洪水が止み、地が現れたとき、それらは箱舟から出てきた。神は、新しい世界の始まりにあつても、蛇——悪の象徴とも見なされる存在——を排除されなかつた。強いものも弱いものも、好まれるものも忌避されるもの

の中に、清くないものを混ぜて入れられた。アダムとエバを誘惑した蛇を含む、地を這うものまでもであります。洪水が止み、地が現れたとき、それらは箱舟から出てきた。神は、新しい世界の始まりにあつても、蛇——悪の象徴とも見なされる存在——を排除されなかつた。強いものも弱いものも、好まれるものも忌避されるもの

の中に、清くないものを混ぜて入れられた。アダムとエバを誘惑した蛇を含む、地を這うものまでもであります。洪水が止み、地が現れたとき、それらは箱舟から出てきた。神は、新しい世界の始まりにあつても、蛇——悪の象徴とも見なされる存在——を排除されなかつた。強いものも弱いものも、好まれるものも忌避されるもの

の中に、清くないものを混ぜて入れられた。アダムとエバを誘惑した蛇を含む、地を這うものまでもであります。洪水が止み、地が現れたとき、それらは箱舟から出てきた。神は、新しい世界の始まりにあつても、蛇——悪の象徴とも見なされる存在——を排除されなかつた。強いものも弱いものも、好まれるものも忌避されるもの

の中に、清くないものを混ぜて入れられた。アダムとエバを誘惑した蛇を含む、地を這うものまでもであります。洪水が止み、地が現れたとき、それらは箱舟から出てきた。神は、新しい世界の始まりにあつても、蛇——悪の象徴とも見なされる存在——を排除されなかつた。強いものも弱いものも、好まれるものも忌避されるもの

の中に、清くないものを混ぜて入れられた。アダムとエバを誘惑した蛇を含む、地を這うものまでもであります。洪水が止み、地が現れたとき、それらは箱舟から出てきた。神は、新しい世界の始まりにあつても、蛇——悪の象徴とも見なされる存在——を排除されなかつた。強いものも弱いものも、好まれるものも忌避されるもの

## アシュラムセンター創立50周年記念企画

アシュラムセンター職員(?)紹介(3) (1976年4月号)アシュラム誌より

文責: 梶本保郎

岡崎澄  
センター専従職員  
40年の小学校の教



おられます。几帳面な姉妹はセンターにとつてなくてならぬ存在であります。ややこしい事務や全国から寄せられる便りを黙々として処理してくださっています。たのみがいのある人

に名実共に献身しておられます。几帳面な姉妹はセンターにとつてなくてならぬ存在であります。ややこしい事務や全国から寄せられる便りを黙々として処理してくださっています。たのみがいのある人

榎本利子..

セントラルのまかない婦 この人の笑顔を見るだけでもなぐさめられるなどと持ちあがれる人がいます。本当に、としげしげ見つめても、30年も見て來たので余り感動はありません。ただ真実なことだけは夫である私も心から尊敬しています。

「はい、これがあなたの中身を確かめてみる」と、その中に「アシュラム」と書いた一冊の本があつた。1ページ、2ページとめくるとプログラムがあり、そこには意味のわからない言葉が、三つ四つあつた。それを見たとき、マラソンのスタートラインに立ち「よう」のかけ声をかけられた時のように緊張感を覚えた。開会式においてスタートして、走りきれるだろうかという不安でいっぱいでした。

中道 基夫 「はい、これがあなたの中身を確かめてみる」と、その中に「アシュラム」と書いた一冊の本があつた。1ページ、2ページとめくるとプログラムがあり、そこには意味のわからない言葉が、三つ四つあつた。それを見たとき、マラソンのスタートラインに立ち「よう」のかけ声をかけられた時のように緊張感を覚えた。開会式においてスタートして、走りきれるだろうかという不安でいっぱいでした。

中道 基夫 「はい、これがあなたの中身を確かめてみる」と、その中に「アシュラム」と書いた一冊の本があつた。1ページ、2ページとめくるとプログラムがあり、そこには意味のわからない言葉が、三つ四つあつた。それを見たとき、マラソンのスタートラインに立ち「よう」のかけ声をかけられた時のように緊張感を覚えた。開会式においてスタートして、走りきれるだろうかという不安でいっぱいでした。

## 高校生アシュラムの感想(49年前) (アシュラム誌1976年8月号より)

いうだらけた気持ちで走らねばたまらない気持ちになつています。次のがなんとすがすがしい朝だつたでしょ。今までの自分のだらけをはきちらすように太陽が輝いていました。また、ファミリーの時、自分の悪いところをみんなの前にさらけました。

今年、アシュラムセントラルの創立50周年記念会に参加できました。私は、私にとつて、まるで人生の中で「歴史・信仰・生命が交わる一瞬」に招かれた旅のような体験でした。記念会の中で、アシュラムは、本当に新しい生活への出発という感じです。

アシュラムセンターは超教派のキリスト教団体であり、祈りの生活を通して主イエスの御前で自らを整え、今日の私たちに託されている使命に応える場です。

「神の国は次のようないものである。人が土に種を蒔いて、夜昼寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそういうのか、その人は知らない。土はひとりでに実を結ばせるのであり、まず茎、次に穂、そしてその穂には豊か

### アシュラムセンター

#### 50周年記念会参加の感想

李天謝

アシュラムセンター

深く実感しました。

アシュラムセンターは超教派のキリスト教

団体であり、祈りの生

活を通して主イエスの御前で自らを整え、今

日の私たちに託されて

いる使命に応える場で

す。

（現在関西学院院長）（当時高校生、明石教会所属）

（今回の50周年記念礼拝にて説教のご奉仕を！）

な実ができる。実が熟すと、早速、鎌を入れる。収穫の時が来たからである。」(マルコ 4・26-29)

特に心を動かされたのは、日本のさまざまな教派から来られた多くの働き人が、静かに、そして肅々と奉仕されている姿でした。

私が不注意で転んで少し怪我をした際、面識のないスタッフの方が、薬やカード、飴を袋に入れてわざわざ届けてくださいり、その心遣いに深く励まされました。信仰の成熟とは、「どれほど多くの働きをしたか」ではなく、「日々の生活の中で三位一体の神に造り変えられることを願つて歩む姿勢」にあるのだと、改めて示された出来事でした。

また、主催者の皆さんには、日本の国際水準の古典音楽・現代音楽・バレエの夕べに加

えて、台湾の多文化を代表する太魯閣族の歌舞、排湾族の八名の牧師による美しい合唱など、豊かなプログラムを準備してくださいました。

最後には、クリスチャン・アシュラム創始者である米国メソジスト教会の宣教師 E・スタンリー・ジョーンズ博士の孫娘アン・マーシューズ氏が、ゴーギヤンの名画を通して「私たちはど

こから来たのか? 私たちは誰なのか?どこへ向かうのか?」という問いを投げかけ、深い感銘を受けました。さらに、京都近郊に

ある、日本の禁教時代に天主(カトリック)のために殉じた信徒を記念する碑を訪れたことも忘れられない経験となりました。

今回の50周年の主題聖句は、「こうして、あなたがたは五十年を

神に選ばれた者として、たとえ A I 時代のように急激に変化する社会にあっても、家庭、教会、職場、それぞれの場で、神が与えてくださった唯一無二の賜物を用い、限られた時間の中で与えられた使命を全力で果たすことを求められているのだと感じます。「人事を尽くして天命を待つ」この言葉の通りです。

最後に、この50周年記念大会のために費用や力を注ぎ、陰に日向に支えてくださったすべての皆さまに、心より感謝を申し上げます。主がその労苦と奉仕を豊かに覚えてくださいますように。

(台湾基督教長老教会 正忠教会 伝道者)

ツアーリー開始! 筆者...左端  
キリスト教の跡を巡る



記念会の講演、コンサートの様子を、いろいろチャンネルにて視聴できるよう、準備しておりますので、お待ちくださいませ。

## アシュラムセンター創立50周年記念礼拝の祈り(船・向こう岸・荒波を意識)

主なる神よ、

今日、私たちはアシュラムセンター創立50周年という節目にあたり、あなたの前にひざまずきます。

初代主幹牧師、榎本保郎が聞いた声——「向こう岸へ渡ろう」という呼びかけに導かれ、先達たちはまだ見ぬ地に船を漕ぎ出しました。その矢先、わずか2年で彼は天に召され、先達たちは指導者を失い、途方に暮れました。

しかし、彼らは人ではなく、ただ神にのみ頼ることを選びました。残された兄弟姉妹たちは、主の約束を信じ、再び船を向こう岸へと漕ぎ出したのです。

もちろん、それからの道も決して平坦ではありませんでした。二度の大きな地震、経済の危機、世界が戦争へ向かうのではないかという恐れの中でも、彼らはただ主にのみ頼り、祈りとみ言葉を力として、荒れた海を越え、揺れる船を守りながら進みました。その歴史は、信仰に生きる者がいかに深く主に信頼できるかを示す証です。

この50年目の節目——ヨベルの年、神が時を聖別される年に、私たちはこれまでの航路を振り返ります。そこに注がれた主の憐れみと祝福に、感謝せずにいるわけにはおれません。神は決して私たちを孤児とはされず、かえって祝福をお与えくださいました。それは大きな喜びであり、深い感謝あります。

しかし、主よ、ここは到達点ではありません。この50年は、新たな船出の始まりであり、未来への出発点です。まだ見ぬ向こう岸が私たちを待つ道にあっても、あなたは必ずこの船に共におられ、友として、舵取りとして、嵐の時も共に進んでくださることを信じます。

どうか私たちの手を導き、心を一つにし、初代牧師の祈りと希望を、私たちの上に重ねてください。

これから50年、そしてその先の未来に至るまで、あなたの臨在と恵みが絶えず私たちの船を照らし、守り、導いてくださいますように。

イエス・キリストの御名によって、  
アーメン。



「イエスは主なり！」記念アシュラム始まりの挨拶



11月22日天上の友を憶える日礼拝、聖霊の風吹くシメオン庭にて。猪瀬和子姉、奥村文子姉、河村琢郎兄(康子父)のご家族、プレート作家の田ヶ原ご夫妻他、アシュラムの皆様方が、集い祈り賛美くださった。

この度の50周年記念のため、皆様方のお祈り、ご献金、そしてご奉仕、心より感謝申し上げます。早々とご感想をお寄せ下さった方々もおられ感謝です。次号より掲載させて頂きます。皆様からのお便りもお待ちしています。

シメオンの風8 「卓上カレンダーと裏切りモミジ」

市橋 恵子

アシュラムセンター50周年記念のお祝いに「シメオン黙想の家 2026」

卓上カレンダーをいただきました。美しいシメオンの建物と周囲の自然が映し出された12枚の写真集でもあります。その中に、シメオンの庭のモミジを映したもののが二枚ありました。一枚は5月の青もみじ、もう一枚は11月の紅葉です。

5月の青モミジは葉の一枚一枚が光に向かって飛び跳ねているようで明るく、すがすがしい。11月の写真はシメオンの玄関の八極星のような形をした採光窓から入り口のアプローチ越しに見える紅葉にはかしがかかっています。それを見ながら、「こいつは裏切りモミジなのよね」と私はおもわずつぶやかずにはいられません。

11月に見るモミジの葉はどんよりした茜色なのです。まるで、今年の紅葉は色づき悪くてごめんなさいといっているような。「え、これで終わり？今年の色づきはあかんかったねえ」とため息つきたくなるような。しかし、12月の第2週くらいになると、なんということでしょう。あのどんより茜色のモミジがまるで埃が洗い落とされたあとのように透き通った見事なルビー色のモミジに変わるので。シメオンに通い続けて5年。毎年私はこのモミジに裏切られ続けています(いい意味で)。いや、これは紅葉を期待しすぎる自分の早合点。神様はその一番良い時に自然を輝かせてくださいます。なお、榎本光太さん撮影・編集のこのシメオンカレンダーお勧めです。



いえじま 雜記 31 「翻訳とは？？」



年の瀬に入り、来春に出る予定の訳書の校正に追われる毎日です。翻訳は山登りのようにいつも思いますか、ひと通り訳しあえたあとの校正作業は差し当たり山を降りるようなものでしょうか。スイスイ進むようにも思うのですが、油断大敵。思わぬところに訳し間違いや表記のゆれなどが潜んでいて、何度読み直しても、修正箇所が出てきます。まるでいちいち雑草を引っこ抜きながらゆっくり山を降りているようです。

あらゆるもののがとんでもない速さで消費され、現れでは消えていくなか、そういう翻訳のスピードは遅々としたものなのですが、そうやってゆっくりと立ち上がる言葉には愛着を感じてしまいます。ようやく下山して、その山をふもとから見上げると、完璧からは程遠い雑草だらけのその山は、しかしほかのどの山も違って見えるのです。クリスマスがきて、一年が終わり、また新しい一年がはじまります。矢のようにすぎていく日々が少しでもゆっくりになるように願いながら、僕は翻訳のスピードに身を沈めます。もしかしたらそれは祈りのスピードにも近いかもしれません。皆様、よいクリスマスをお過ごしください。

榎本 空（ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住）



← 12月3日、神戸イエス団教会との平和合同祈祷会、15回目！今年の講師は河崎靖教授（京都大学）（恵師右隣）ボンヘツファーの生き方、思想を学び、今、再び平和への祈りを共に！遠路神戸より上内師共に3名感謝。



←初！シメオン庭に、大きなリース！和田モツド姉渾身の作。皆様に喜ばれます。

新しい年、新しい歌を歌おう。  
アシュラムセンターは祝福のうちに、50周年を迎えることができました。いよいよ、私たちちは新たな船出に出发しようとしています。  
2026年のアシュラムセンターの働きも、1月の第51回の年頭アシュラム、2月ラジルアシュラム、3月台湾アシュラムと続いてまいります。  
「人は変わり、世は移れど、主は御心なし給わん」。確かにこの賛美のように、50年の時の流れは大きいものです。しかし、その中でも決して変わらぬものがあります。  
「不易と流行」、変わらなければならぬものと、変わらぬものを、見極めながら、この新しい一年も歩んでまいりますので、どうぞアシュラムセンターの働きを覚え、今まで祈りますので、ただきますようお願いします。私たちも祈ります。(恵)



〈早天誕生者への祈り〉  
お一人お一人の歩みが

どんなに迷い出ても 主は必ず探し出し 連れ帰って下さる方：

あなたの大きなふところへと はね返る時であることを信じ、歩むことができますように。

詩119(テト) 恵

中止、又はオンラインに変更もあり。  
ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり！

【主な問い合わせ先】0748-33-4030 アシラムセンター  
【Zoom・インターネット等問い合わせ先】080-3983-8140

### 1月の聖書教室など

|        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 4(日)   | ちいしば牧師記念チャペル夕礼拝 (PM5:00)            |
| 6(火)   | Zoom聖書教室 (Zoom PM7:30)              |
| 9(金)   | 阪神ミニアシラム (神戸聖愛教会 PM1:00)            |
| 10(土)  | 加古川祈りの家 (フリーメソジスト加古川教会 PM1:00)      |
| 20(火)  | 大阪聖書教室 (大阪クリスチヤンセンター AM10:30)       |
| 21(水)  | みんなのカフェちいしば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30) |
| 26(月)  | 静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30) |
| 27(火)  | 東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチヤンセンター 4F AM10:30)  |
| 27(火)  | しみじみする会 (桜美林大学 荊冠堂チャペル PM2:30)      |
| 30(金)  | センター聖書教室 (アシラムセンター AM11:00)         |
| 2/6(金) | 阪神ミニアシラム (神戸聖愛教会 PM1:00)            |

### 1月のアシラムなど

|       |                                                          |
|-------|----------------------------------------------------------|
| 12(月) | 第51回 年頭アシラム(申し込み受付中!) 0748-33-4030                       |
| 14(水) | 奉仕者 櫻本 恵師/金田 佐久子師 アシラムセンター                               |
| 24(土) | バプテスト連盟 ふじみキリスト教会アシラム 0748-33-4030<br>奉仕者 櫻本 恵師 アシラムセンター |

### 2・3月のアシラム予定

|         |                       |
|---------|-----------------------|
| 2/11(火) | ブラジル伝道旅行 0748-33-4030 |
| 2/24(火) | 奉仕者 櫻本 恵師 アシラムセンター    |
| 3/2(月)  | 第43回 台湾愛修會            |
| 3/4(火)  |                       |



### 献金のお願い

創立50周年のため祈りお献げ下さった皆様、感謝致します。引き続きお祈りとご献金をお願い申し上げます。

キャッシュレス献金はこちらのQRコード  
または「オンライン献金.com」と検索ください。  
アシラムセンター運営  
記号番号 01050-6-53772



### みことば



日本キリスト教団 豊島岡教会  
南花島集会所 牧師 江口公一

アベル門の友。  
何處へ?

11章 「キリストに仕える者なのか。気が変になったよう  
に言いますが、わたしは彼ら以上にそうなのです。」(Ⅱ  
コリント11:23)

11章は「あなたがたに対して、神が抱いておられる熱  
い思い(嫉妬)を私も抱いています。」(2)という現状への  
問題提起から始まります。コリント教会をキリストの花  
嫁とするため神の前で婚約させた者として、教会が他の  
神に心を向けようとしているのではないかとの神の嫉妬  
をパウロも自らの思いとして抱き、心配しているのです。

理由として、「あなたがたは、だれかがやって来てわた  
したちが宣べ伝えたのとは異なったイエスを宣べ伝えて  
も…違った靈や…違った福音を受け入れることになって  
も、よく我慢しているからです」(4)と記しています。

コリント教会にやって来た人々は、パウロを「弱々し  
い人で、話もつまらない」(10:10)と批判した様で、パ  
ウロは彼らを「あの大天使たち」(5)「偽使徒」(13)と呼び  
ました。彼らが語ったイエスは、十字架の死を強調しな  
い神の力を帯びた強いイエス、靈は、人を預言する状態  
にさせる靈、福音は、神の力とキリストの行いによって  
弱さと死を克服し勝利と復活の命を得る事だったでしょ  
うか。当時のユダヤ教の教えと整合していたと思われま  
す。力が支配する世の論理の延長にも思えます。パウロは、  
かつての自分自身の誤った神信仰を思い起こしたでしょ  
う。

これに対して、パウロが伝えたイエスは、「神の弱さは  
人より強い」「十字架につけられたキリスト」(1コリ1:  
23~25)でした。靈は、一人一人に教会を作り上げる賜  
物を分け与える靈(1コリ12:4~11)、福音の言葉は、  
パウロも受け継いだ「キリストが聖書に書いてあるとお  
りわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、  
…三目目に復活したこと…十二人に現れたことです」(1  
コリ15:3~5)でした。この十二人に連なる多くの「使  
徒」の最後に、一番小さな値打ちのない者であったパウ  
ロにもキリストは現れ「使徒」とされたのです。

パウロは、自分も彼ら以上に「キリストに仕える者」  
であると、「気が変になったように」証しました。同胞  
からも異邦人からも苦難を受け、その上、日々迫る全て  
の教会の心配事があった(23~28)と。引き裂かれた世  
にあって、力によらず、弱さを十字架で共に負われる主  
に仕え、和解の奉仕をする者が導かれるのは、このキリ  
ストの証だと思います。